

橋本神社・菓子祭 (令和4年4月3日)

2022年(令和4年)4月4日(月曜日)

言置

言置

No. 1

読売新聞(4月4日)

お菓子業界 繁盛願う

海南 橋本神社 全国から奉納

お菓子の神様とされる「田道間守命」をまつる海南市の橋本神社で3日、製菓業界の商売繁盛を願う「菓子祭・全国銘菓奉獻祭」があった。

橋本神社の旧社地「六本樹の丘」は、第11代垂仁天皇の時代に、田道間守命がお菓子の起源とされるかんきつ類・橘を日本で初めて植えた地との伝承がある。菓子祭は、この伝承にちなんで1965年に始まった。

今年は、全国の185の



① 祝詞を奏上する前山宮司(海南市で) ② 奉納された菓子の数々



製菓会社や菓子店が、あらわやラムネ、ビスケットなどを奉納。前山和範宮司(58)が、菓子業界の繁栄と新型コロナウイルスの終息を願って祝詞を奏上し、巫女が舞を披露した。

参列した県洋菓子協会(和歌山市)の児嶋悟会長(54)は「早くコロナが終息して、多くの人にお菓子を楽しんでもらえる日が訪れてほしい」と話した。

業界繁栄 祈願して

海南・橋本神社で「菓子祭」



菓子祭で祝詞を奏上する前山和範宮司(海南市の橋本神社)

菓子やミカンの神「田道間守」を祭る海南市の橋本神社で3日、恒例の「菓子祭・全国銘菓奉獻祭」が行われた。市は日本のお菓子発祥地とされ、全国各地の菓子メーカー関係者らが自慢の品を供え、業界の繁栄を祈願した。

北海道から九州まで全国各地から185の業者があらめやラムネといった多彩な菓子類を持参し、参列。神事では、前山和範宮司が祝詞を奏上し、業界の発展と新型コロナウイルスの終息を祈願した。その後、参拝者らは厳かに玉串を捧げた。恒例の餅投げは、新型コロナウイルス感染症対策で中止された。

産経新聞(4月5日)

(大阪市東住吉区)の谷口壽会長(68)は「お菓子は心を豊かにするもの。お菓子を通じて社会や地域に貢献していきたい」と話した。

前山宮司は「コロナの影響で土産物の菓子類の売り上げ不振が深刻と聞いている。そうした状況も今日を境に元に戻るよう」と願っていた。

参列したチョコレート菓子類のメーカー「たにぐち」



多くの菓子やミカンが奉納された神社で祝詞を読み上げる前山宮司—海南省の橋本神社で

毎日新聞(4月4日)

ミカンの神様に菓子奉納

海南

菓子とミカンの神様「田道間守」をまつる橋本神社(海南省下津町橋本)で3日、菓子業界の商売繁盛を願う「菓子祭・全国銘菓奉

献祭」があった。全国の185社から約300種類の菓子が奉納された。

古事記や日本書紀には、第11代とされる垂仁天皇の命を受けた田

橋本神社 祭りで300種類

道間守がミカンの原種として親しまれていたことから、1965年に祭りが始まり、今回で58回目。前山和範宮

司が祝詞を読み上げ、みこが舞を奉納した。参列した大阪市東住吉区のチヨコメーカー「たにぐち」の谷口寿会長(68)は「今は新型コロナウイルスやウクライナ情勢が緊迫する暗い世の中だが、菓子を通じてにぎやかな世の中になるよう祈っている」と話していた。

【駒木智一】

菓子業界の発展願

橋本神社で銘菓奉献祭

海南

ミカンと菓子の神様である「田道間守命(たぢまもりのみこと)」を祭る橋本神社(海南省下津町橋本、前山和範宮司)で3日、春の大祭「菓子祭・全国銘菓奉献祭」があ

り、全国の菓子業者185社以上が菓子を提供し、菓子業界の発展などを祈った。

同神社のある同地区は、日本で初めてミカンの原種である橋が植えられ、ミカン発祥の地とされる。昔の人は橋を菓子として食べていたことから、同神社は、ミカンと菓子の神様として親しまれている。

大祭には、市内をはじめ全国から製菓企業の代表者ら約60人が参列。前山宮司

が地元産のデコポンと三宝柑、紅白のおぼろまんじゅうなどを神前に献饌、祝詞を奏上した。みこが「浦安の舞」を舞い、参列者は玉串をささげた。

前山宮司は「先祖様や先人と現代の人の架け橋になるような神社であり続けたい。代々参拝してもらえたら」とあいさつ。岡山県から毎年参列している(株)大町の社長特命部長、えがお発信隊の桜間博史さんは「田道間守命に報告と感謝を

伝えた。世界中の子どもたちを駄菓子で笑顔にする活動をしていきたい」と話した。



菓子業界の発展を祈る前山宮司

和歌山新報(4月6日)



和歌山特報 (4A/11日)

お菓子の神様 「田道間守命」に願う

橘本神社 (海南市下津町橘本)

「菓子まつり」

菓子業界の発展、コロナ収束、
世界平和を祈る……



厳かに神事

4/3



祝詞奏上する前山宮司

▽：お菓子のまちを表記する海南市のお菓子の神様「田道間守命」を祀る「橘本神社」(同市下津町橘本)で4月3日「全国銘菓奉獻祭」(菓子まつり)が開催された。

祭壇には北海道〜九州まで昨年よりやや多い約100の大手菓子メーカーや菓子店などら自慢の菓子を奉納。同神社の前山宮司による祝詞奏上、関係者による玉串奉奠、巫女舞奉納など厳かに神事が行われ、関係業界のますますの発展と、新型コロナウイルスの収束を祈った。

今年も、コロナ感染防止のため「モチ投げ」を中止した。

田道間守命が天皇の命を受け、不老長寿の実のなる「非時香菓」ときじくのかぐのこのみ「橘」を探しに中国に渡った。十数年後、「非時香菓」



(橘)を持ち帰ったが天皇は既に崩御されていた。持ち帰った「橘」を同神社の旧社地にある「六本樹の丘」に植えたという言い伝えがあり、同市・同町が菓子発祥の地と云われ、菓子のまちとして条例を定めている。



奉納されたお菓子がズラリ

菓子祭新聞社 (名古屋市)

全国から奉献菓子集まる

第58回・菓祖橋本神社「銘菓奉献祭」

菓子業の祖神として知られる橋本神社(和歌山県海南市・前山和範宮司)では、毎年恒例(本年第五十八回)の田道間守公をお祀りする「銘菓奉献祭」を四月三日(日)に開催した。コロナ禍が続く中に配慮して、参加者

全員のマスク着用他の感染防止対策をしての開催となった。境内のソメイヨシノはほぼ満開、菓子業有志寄贈のシタレ桜は五分咲きで、大型テントは用意されていたが、一時でパラ雨が降る中で奉献祭が行われた。境内に用意されたイス70脚はほぼ満員で、国旗掲揚の後、太鼓、修祓、宮司一拝、献饌、祝詞奏上、浦安の舞、玉串奉天(参加の菓子業界代表、企業代表)撤饌、宮司一拝、太鼓の順で厳かに執り行われた。



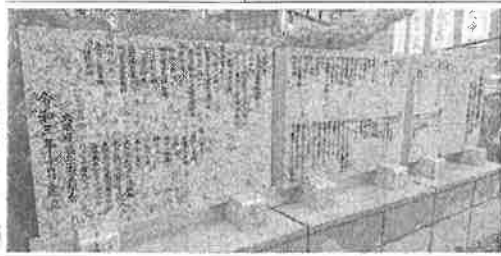
前山宮司による祝詞奏上では、全献上企業185社が読み上げられ、菓子業に携わるすべての企業の繁栄を祈願。併せてコロナウイルスの早期終息祈願もされた。恒例の奉献祭後に行われる餅(お菓子倉)投げは今回も中止となった。神事が終了後祝辞を述べた、DAGASHIで世界を笑顔にする会の秋山秀行会長(株大町社長)は、「今年3月12日に全国407ヶ所でイベントを開催。上野動物園の弁天広場を貸し切って開催したイベントには多くの人が集まり、だごと笑顔の交換ができた。『だがし紙芝居』の最後に出てくる戦争の場面では、子供達から『ウクライナ、ロシア』との声があちこちから出たが、登場する『だいたん』が「今日は3月

12日だよ、戦争なんかしてちやダメだよ、だごと武器を交換しよう」と訴えると、だごとと交換した人たちがニコニコするというストーリーに、子供たちは喜んで手をたたいた。世界中をイジメや差別、戦争のない平和な社会にしたい。これからも日本のお菓子の原点「だがし」を通して活動していきたい」と述べた。また、前山宮司は謝辞で、「コロナ禍の中、今年で第58回を迎える銘菓奉献祭に多くのお菓子関係者が参集いただいたこと、全国から185社の奉献をいただいた事に感謝します。先日、安倍元総理の昭恵夫人が参拝にいられたが、昭恵夫人は森永製菓3代目社長の娘さんで、この橋本神社とも深い関りがあり、以前、先祖がお参りいただいた資料などをご覧いただきたい。これからも、多くの菓子業界の方々の先祖と空間を超えた繁栄を祈願して参りたい」と述べた。

週刊製菓時報
(大阪市)



挨拶する秋山秀行会長



<上>ズラリと奉納された全国の銘菓<下>大阪府菓子工業組合を代表して参拝(右から井上、村上、中島、岡部氏)



祖本神社 菓橋 春祭・菓子祭と第58回 全国銘菓奉獻祭を斎行

菓祖・橋本神社(前山社の企業から銘菓が献上和範宮司、和歌山県海南市下津町)恒例の「春祭業界の繁栄を記念した。菓子祭・銘菓奉獻祭」は、境内の桜が咲き誇るなか4月3日に斎行。当日は曇り模様で降雨の予報もあり境内にテントが用意され、感染拡大に配慮し万全の安全対策をした上での斎行となった。

今年是全国から185社の企業から銘菓が献上され、約60人が出席した。菓子祭・銘菓奉獻祭は、奉獻菓子が並んだ拝殿において午前11時20分から始まり、国旗掲揚のあと力強く打ち鳴らされる太鼓の音とともに開式。

古式にのっとり修祓、宮司一拝、開扉、献饌、と進み、前山宮司が祝詞

奏上で全国の企業名を織り込み菓子業界の隆昌と各社の繁栄を祈願した。続いて「浦安の舞」を奉納、玉串奉奠ののち、参議院議員・尾崎要二氏は「暗い世相の中、お菓子は安らぎや和を与え。幸せを呼ぶ業界だ」と祝辞を述べたのち、DAGASHIで世界を笑顔にする会」会長・秋山秀行氏(樺太町)は「昨

年はコロナ禍で開催することができなかった3月11日の「だがしの日」のイベントを今年は全国で開催することができた。上野公園では紙芝居を披露し、沢山の子供たちが集まり、だがしと笑顔の交換ができた。世界中のすべての地域で戦争を無くし平和にしたいという

思いで7年間活動を続けており、ユニセフや国連を通じて難民の方々にも『だがし』を寄付したいかと考えている。平和と平等の共存共栄をしていきたい」と祝辞を述べた。そのち撤饌、閉扉、宮司一拝で神事を終えた。最後に前山宮司は「昨年は式年祭を滞りなく終えることができ心より感謝している。今日は記念の石碑も完成しているので

ぜひご覧ください」と挨拶し、参拝に対し感謝の意を述べた。

奉獻菓子は、おさがりとして社会施設・団体に寄贈される。恒例の餅投げは中止となったが、直会は開催された。